

ボランティア活動報告書(2 号)

記入日	2013年11月02日
区分	一般隊員
氏名	大山 達也 (24-4)
派遣国	マラウイ
職種・指導科目	栄養士
派遣期間	2013年03月25日 ～ 2015年03月24日

報告書 2 号要約

第2号報告書では以下の項目について述べる。

【1】活動計画の説明

要請書の内容やカウンターパートとの意見交換、自分で見つけた課題などを考慮し活動方針を定め、各目標を設定した。

(1)配属先における目標：カロンガ県における栄養状態の改善

(2)ボランティア活動目標

1、病院環境の改善

1)病院内における5S-KAIZENの徹底

2)入院患者に対する治療食の提供

3)ARTクリニックにおける栄養改善

2、コミュニティでの栄養改善

1)アウトリーチクリニックでの栄養啓発活動

2)新しい調理法の紹介

大別すると上記2項目となった。最終目標は同じであるが、病院内、コミュニティと異なる方向からのアプローチでより効果的に目標達成していく。

【2】活動計画策定に向けた配属先との意見交換

【3】配属先の同行

【4】受入国の人々との交流

【5】その他特記事項

1. 活動計画の説明(様式2参照)

(1)病院環境の改善

5S-KAIZENを通して病院内の衛生や作業効率の向上をはかる。前任者が行っていた病棟ラウンドやアセスメントは、カウンターパートが忙しかったり病棟ナースの協力にムラがあるため、今後ボランティアがいなくなってしまうからの継続は困難と判断。ARTクリニックに所属のボランティアと連携して、ART患者に絞ってアセスメントの向上を目指して活動する。キッチンとしては治療食を再編し、現在ある食材で無理なく作れるものを提供することとした。現地業務費を使用し、必要な調理器具も購入済み。

(2)コミュニティにおける栄養教育

カロンガ県全域の栄養状態の改善には、病院のみを拠点としていると困難だと判断し、コミュニティレベルでの栄養啓発活動を開始していく。その際、活動地域を3箇所に絞って、DADO所属の栄養士とコミュニティ開発隊員と連携して活動していく。主にモリンガを使った料理や季節の食材を組み合わせた調理法を伝えていく予定である。

2. 活動計画策定に向けた配属先との意見交換

病院スタッフの意識向上は現状として難しく、特に食事が治療の一環ということに対しては患者も同様に意識が薄い。また、病院の医療機器や薬の在庫がなくなる、慢性的に人材不足もあって患者に対して十分な医療が提供できているとは到底思えない状況である。カウンターパートと話しあった結果、コミュニティレベルでの病気や低栄養の予防、5Sを通して病院環境の向上をはかることが重要だという意見で一致した。カロンガには私を含めて5名のボランティアが活動中で、そのうち同じ病院で活動する隊員とコミュニティ開発の隊員と連携して行える活動があるため、双方の強みを活かしてカロンガのため、マラウイのためになるような活動をしていく方向である。

3. 配属先の同行

DHOがイギリスに留学してしまったためDMOが新しくDHOとなった。現在、新しくDMOが赴任するという情報は聞いていない。

4. 受入国の人々との交流

同僚をはじめ、いろいろな人の家に招待されるのでお言葉に甘えてお邪魔させてもらうときがある。すると、普段彼らが食べている食事よりも良いであろうものが提供されて、とても素敵なおもてなしを頂く。特に鶏肉が出るときは砂肝をゲストに振舞うのが習慣らしい。だが、良いことばかりでもない。子供や時には大人も私達アジア人を見ると「チャンチュン」と、明らかに馬鹿にしたような言い方からかってくる。確かに見た目が同じなのはわかるが、何故そう呼ぶのか理解できない。振り返って近づくと逃げていくのでコミュニケーションをはかるためとは言い難い。どういう意味なんだ、何で言うのかと尋ねると、ほとんどの人は知らないと答える。要するにからかっているだけのようだ。私は「チャイナじゃないよ、ジャパンだよ。それにその言い方は好きじゃないから次からやめてね。」と伝えるようにしている。チャンチュン撲滅運動はこれからも続いていこう。

5. その他特記事項

特になし。